

2019年3月期決算概要



日進工具株式会社

2019年5月13日
(証券コード6157)

目次

| | | |
|-------------------------|-------------|-----------------|
| 1. 2019年3月期の業績 | P. 3 . . . | 決算の概要 |
| | P. 4 . . . | 営業利益の増加要因 |
| | P. 5 . . . | 損益計算書サマリー |
| | P. 6 . . . | 貸借対照表サマリー |
| | P. 7 . . . | 業績推移 |
| <hr/> | | |
| 2. 2020年3月期の業績予想 | P. 14 . . . | 業績予想 |
| | P. 15 . . . | 設備投資と減価償却費のトレンド |
| | P. 16 . . . | 配当予想 |
| <hr/> | | |
| 参考資料 | P. 18 . . . | 日進工具の概要 |
| | P. 19 . . . | 沿革・業績推移 |
| | P. 20 . . . | 当社製品とその市場について |
| | P. 28 . . . | コーポレートガバナンスの体制 |
| | P. 30 . . . | 株式の状況 |
| | P. 31 . . . | 主要データ推移・投資指標 |
| | P. 33 . . . | 株価推移とバリュエーション |
| P. 34 . . . | I R サイトのご案内 | |

2019年3月期の業績



決算の概要

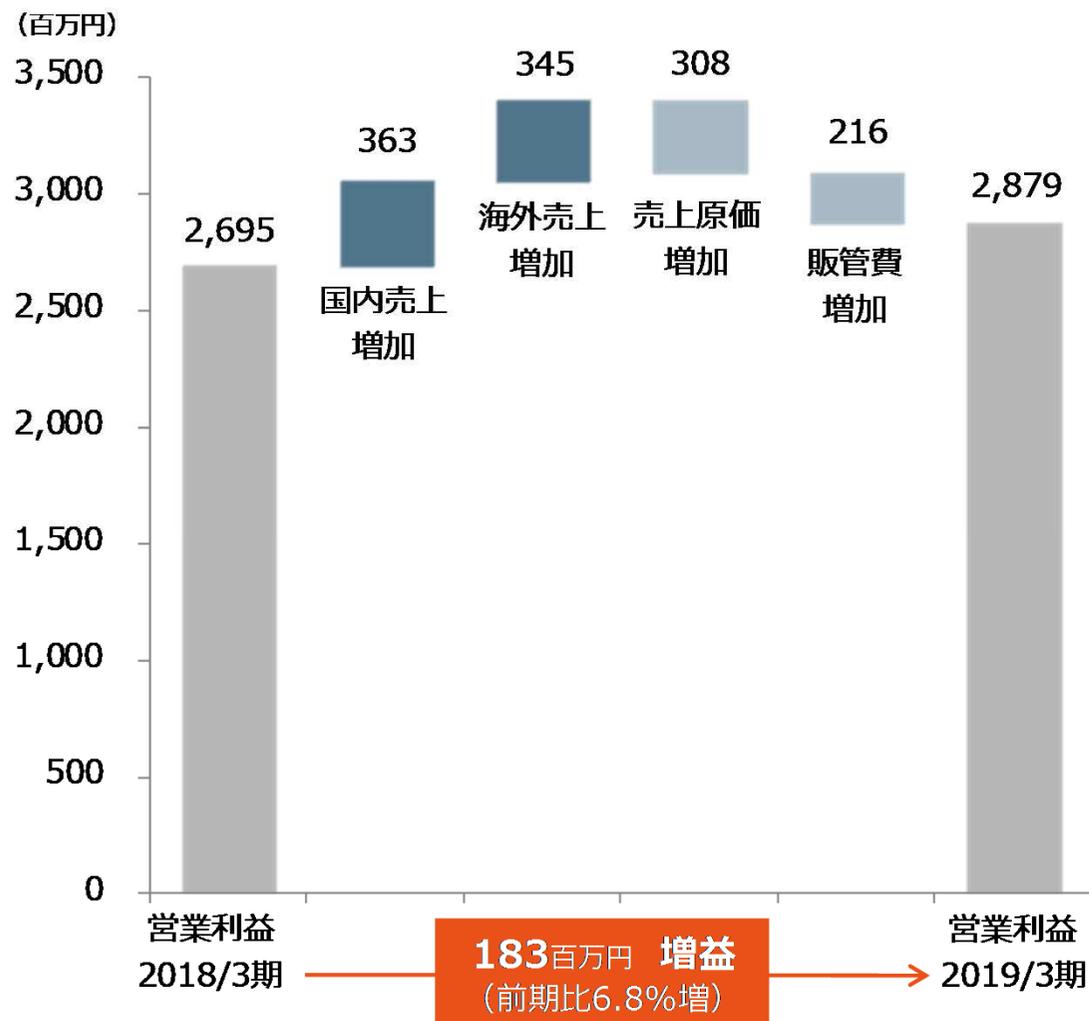
5期連続の最高益更新

| (単位：百万円) | 通期予想 | 2019年3月期 通期実績 | 予想対比 |
|----------|---------------------|---------------------|------------------|
| 売上高 | 10,520 (+7.7%) | 10,476 (+7.3%) | -43 (-0.4%) |
| 営業利益 | 2,750 (+2.0%) | 2,879 (+6.8%) | 129 (+4.7%) |
| 経常利益 | 2,780 (+1.7%) | 2,894 (+5.9%) | 114 (+4.1%) |
| 当期純利益 | 1,910 (+0.3%) | 1,970 (+3.5%) | 60 (+3.2%) |

()内は前期比増減率

- 市場環境は、海外経済が底堅く推移するなか年度前半は順調に推移したものの、秋口以降は中国の景気減速や米中貿易摩擦の激化の影響から輸出が低迷し、弱含む展開となった。
- 需要先の状況としては、自動車向けは、国内新車販売台数が前年比0.7%増と微増にとどまったものの、運転支援システム関連部品の拡大等もあって堅調に推移。一方、電子部品・デバイス向けでは、スマートフォン需要の頭打ちに加え、米国による中国製通信機器排除の動きも影響し年度後半は需要の鈍化がみられた。
- このような環境のなか、売上高は前期比7.3%増の10,476百万円と期初予想を若干下回ったものの、営業利益は同6.8%増の2,879百万円と予想を上回り、5期連続の最高益更新となった。

営業利益の増加要因



- 国内売上高は前期比363百万円、5.0%のアップ、海外売上高は同345百万円、13.5%のアップと国内の伸びを上回った。売上高全体では同709百万円、7.3%の増加。
- 7.3%の売上高増加に対して、売上原価は308百万円、7.3%の増加。年度後半は需要の鈍化や小ロット品に注力したこともあり生産数量が若干ながら減少し、下期の売上総利益率が上期に比べ2.0ポイント低下した。なお、通期のそれは56.6%と前期と同水準。
- 販管費は、本社の移転、JIMTOF出展及び総合カタログの改訂等により216百万円、7.7%増加。
- これらにより営業利益は2,879百万円と183百万円、6.8%増加し、売上高営業利益率は前期から0.1ポイント低下の27.5%となった。

損益計算書サマリー

| (単位：百万円) | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 前期比 | コメント |
|----------------------|------------------|------------------|--------|--|
| 売上高 | 9,767 | 10,476 | +7.3% | 上期は2017年からの拡大基調が継続したものの、秋口以降は中国の景気後退や米中貿易摩擦の影響等から工具需要に若干ながら翳りが見え始めた。 |
| 売上総利益 (率) | 5,528 (56.6%) | 5,929 (56.6%) | +7.2% | 下期は生産数量の減少からやや原価率が上昇したものの、通期では前期並みの高い売上総利益率を確保した。 |
| 販管費 (率) | 2,833 (29.0%) | 3,049 (29.1%) | +7.7% | 本社の移転、JIMTOF出展及び総合カタログの更新等により経費が増加したものの、売上高販管費比率は29.1%と前期並みの水準を維持した。 |
| 営業利益 (率) | 2,695 (27.6%) | 2,879 (27.5%) | +6.8% | 売上高に見合う売上原価及び販売管理費の増加となり、営業利益は前期比6.8%増、売上高営業利益率は27.5%とほぼ横ばい。 |
| 経常利益 (率) | 2,733 (28.0%) | 2,894 (27.6%) | +5.9% | 前期に発生した助成金収入等が当期はなく、また、海外子会社における為替差損の増加により、売上高経常利益率は営業利益の増加率を下回った。 |
| 当期純利益 (率) | 1,903 (19.5%) | 1,970 (18.8%) | +3.5% | 当期は多額の特別損益の発生はなかったが、特別損失が特別利益を上回ったことから、売上高当期純利益率は経常利益の増加率を下回った。 |
| 設備投資額 | 663 | 1,268 | +91.3% | 機械設備の導入に加え、新開発センターの着工により建設仮勘定が増加。なお、当期における新開発センタ に係る金額は408百万円。 |
| 減価償却費 | 625 | 629 | +0.6% | 上記の建設仮勘定等を除き、継続的な機械設備への投資を行ったことにより、減価償却費はほぼ横ばい。 |
| 従業員数 | 338人 | 343人 | +1.5% | 営業や工場で人員強化のため中途採用を実施。 |

()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

| (単位：百万円) | 2018年 3月期末 | 構成比 | 2019年 3月期末 | 構成比 | 前期末比 |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| (資産の部) | | | | | |
| 流動資産 | 9,702 | 67.1% | 9,932 | 64.6% | +2.4% |
| 現金及び預金 | 6,325 | 43.7% | 6,209 | 40.4% | -1.8% |
| 受取手形及び売掛金 | 1,508 | 10.4% | 1,531 | 10.0% | +1.5% |
| 棚卸資産 | 1,745 | 12.1% | 2,056 | 13.4% | +17.8% |
| 固定資産 | 4,764 | 32.9% | 5,449 | 35.4% | +14.4% |
| 有形固定資産 | 4,010 | 27.7% | 4,685 | 30.5% | +16.8% |
| 無形固定資産 | 156 | 1.1% | 84 | 0.5% | -45.9% |
| 投資その他の資産 | 598 | 4.1% | 679 | 4.4% | +13.5% |
| 資産合計 | 14,467 | 100.0% | 15,381 | 100.0% | +6.3% |
| (負債の部) | | | | | |
| 流動負債 | 1,961 | 13.6% | 1,643 | 10.7% | -16.2% |
| 買掛金 | 281 | 1.9% | 277 | 1.8% | -1.2% |
| 固定負債 | 503 | 3.5% | 275 | 1.8% | -45.2% |
| 負債合計 | 2,465 | 17.0% | 1,919 | 12.5% | -22.1% |
| (純資産の部) | | | | | |
| 自己資本合計 | 12,002 | 83.0% | 13,397 | 87.1% | +11.6% |
| 純資産合計 | 12,002 | 83.0% | 13,461 | 87.5% | +12.2% |
| 負債・純資産合計 | 14,467 | 100.0% | 15,381 | 100.0% | +6.3% |

流動資産

主に棚卸資産の増加により、前期末比2.4%増加。

固定資産

新開発センター着工に伴い建設仮勘定が増加した影響等から同14.4%増加。

負債

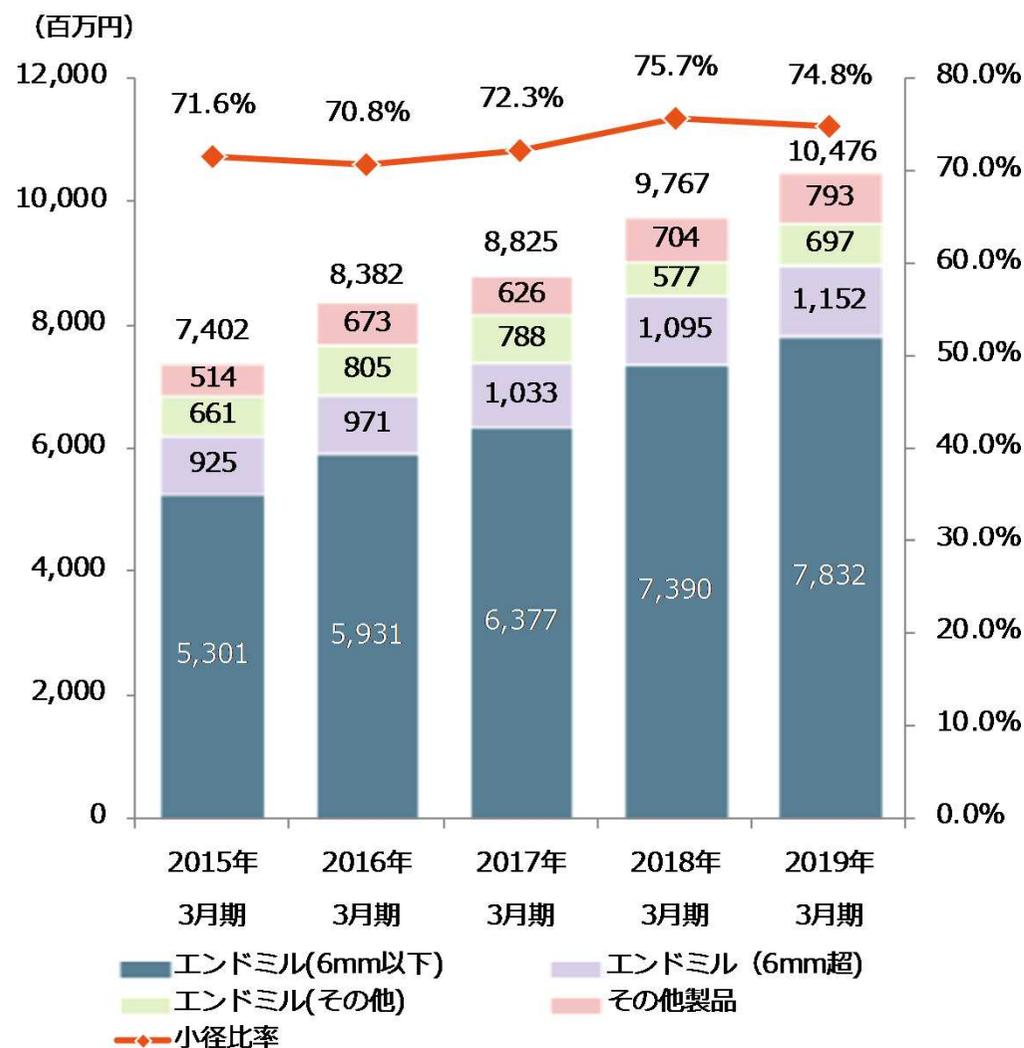
未払法人税等の減少等により、同22.1%の減少。

純資産

利益剰余金の増加等から同12.2%増加、自己資本比率も87.1%と4.1ポイント上昇。

業績推移（売上高の推移 製品別）

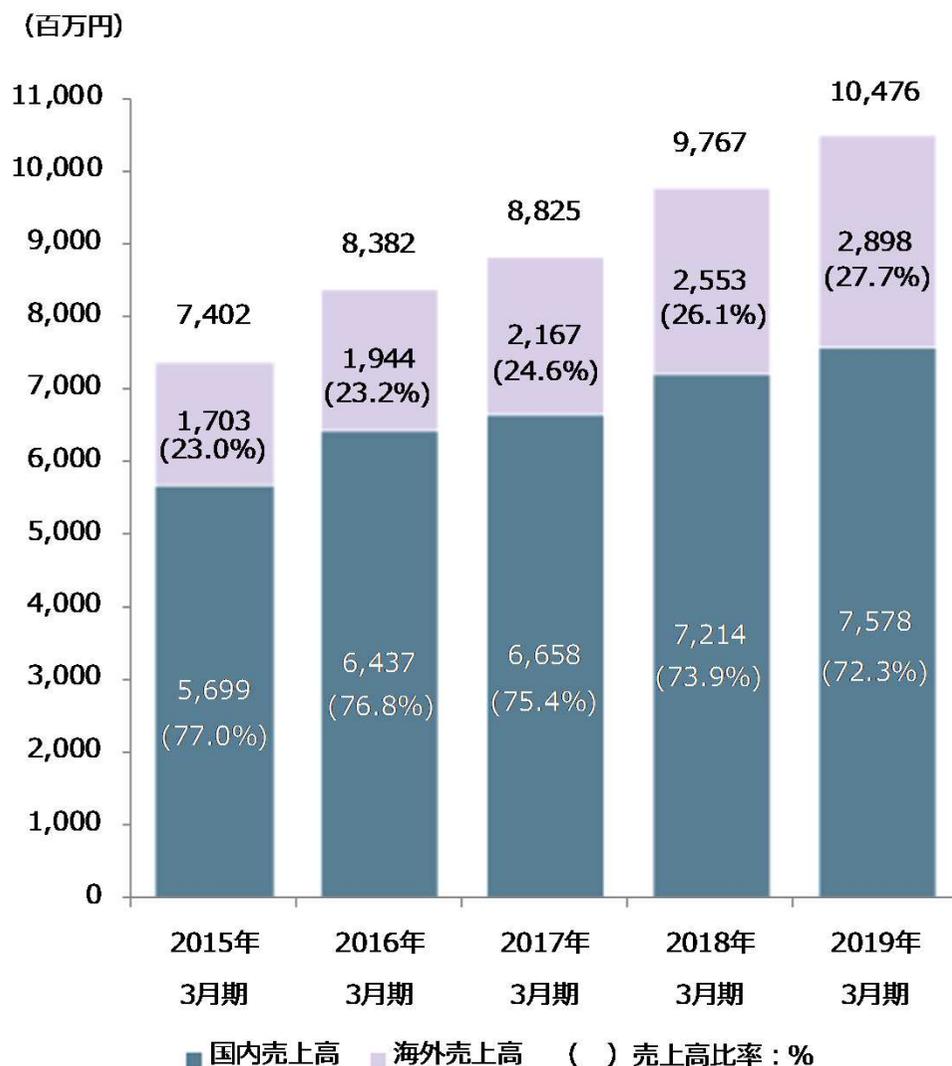
製品別売上高と小径比率の推移



- 秋口以降は中国の景気減速や米中貿易摩擦の激化の影響等から、それまでスマートフォンに牽引されてきた電子部品・デバイス関連向け需要に弱さがみられたものの、自動車向け等に支えられ伸び率は鈍化したものの前期の水準を上回った。
- 連結売上高は、前期比7.3%増加の10,476百万円と7期連続で過去最高を更新、初の100億円超えとなった。
- 製品別では、エンドミル(6mm以下)が前期比+6.0%、エンドミル(6mm超)が同+5.3%、エンドミル(その他)が同20.8%、その他も同+12.7%といずれの製品群も増加。特にエンドミル(その他)とその他の伸びが大きかったことから、小径比率は74.8%と前期の75.7%から0.9ポイント低下した。

業績推移（売上高の推移 国内・海外）

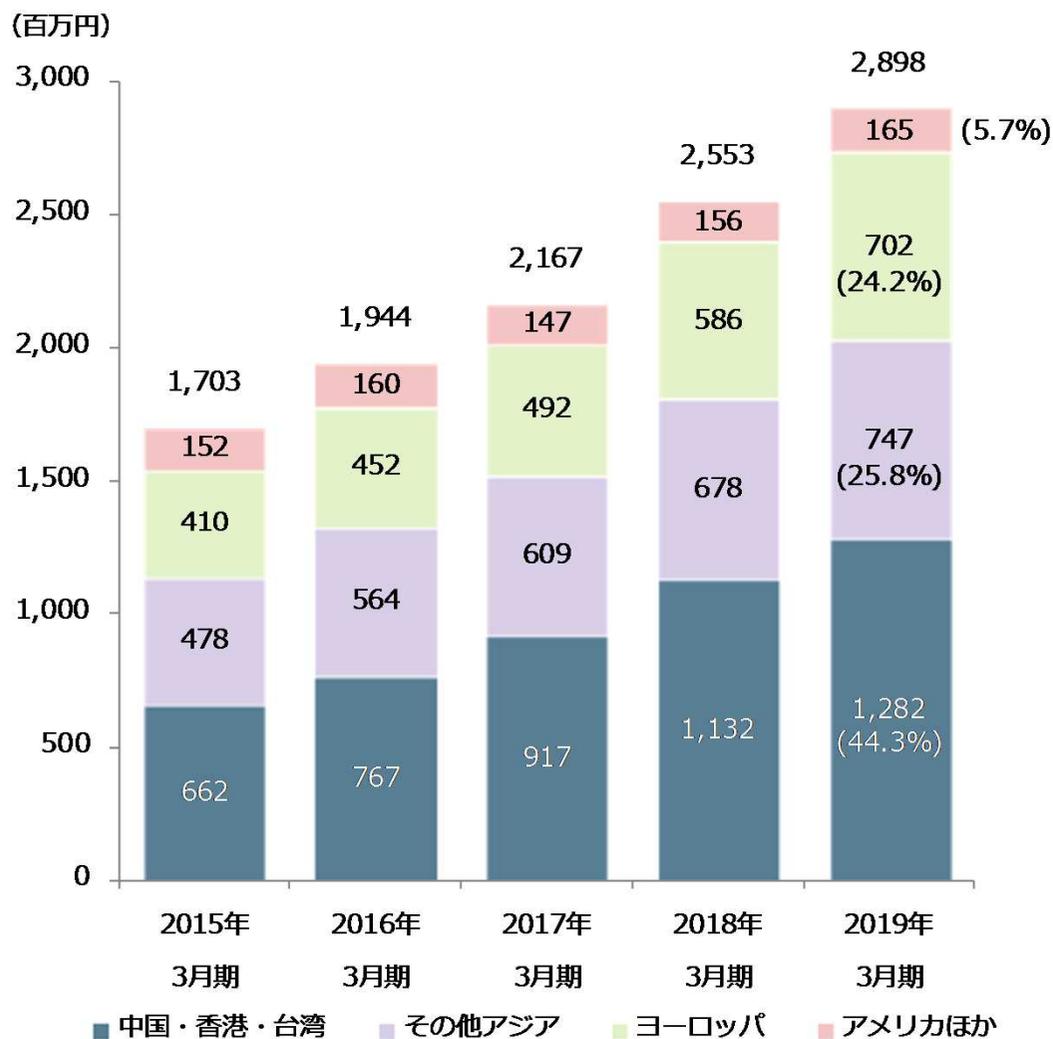
国内・海外売上高の推移



- 海外売上高は前期比+13.5%と前期に続き2桁の増加となった。
- 国内売上高も順調に推移し同5.0%増となったが、海外の増加率が上回り、海外売上高比率は27.7%と上昇。中国向け等は不安定な面はあるものの、海外売上高比率の上昇が継続している。

業績推移（売上高の推移 海外地域別）

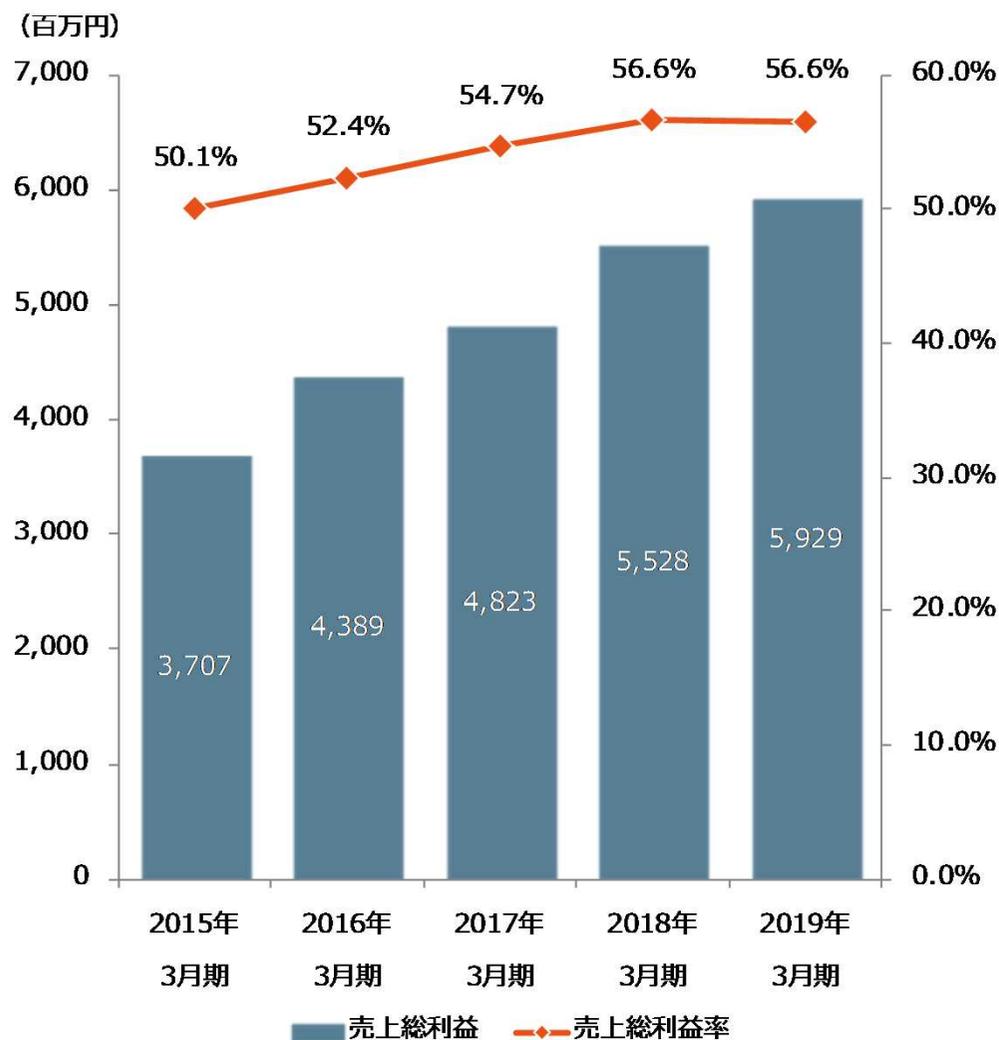
海外地域別売上高の推移



- 海外地域別の売上高は、中国・香港・台湾が前期比13.3%増の1,282百万円。中国の景気低迷や米中貿易摩擦の影響等はあったものの、懸念されたほどの需要喪失はみられなかった。なお、同地域の海外売上高に占める比率は44.3%と前期と同様半分近くを占めた。
- その他アジアはタイを中心に前期比10.3%増の747百万円。
- ヨーロッパはドイツ、イタリア、スイスを中心に堅調、同19.8%の増加となった。
- アメリカほかも同5.6%増加したものの、まだまだ規模は小さく、今後伸ばしていきたい市場と考えている。

業績推移（売上総利益の推移）

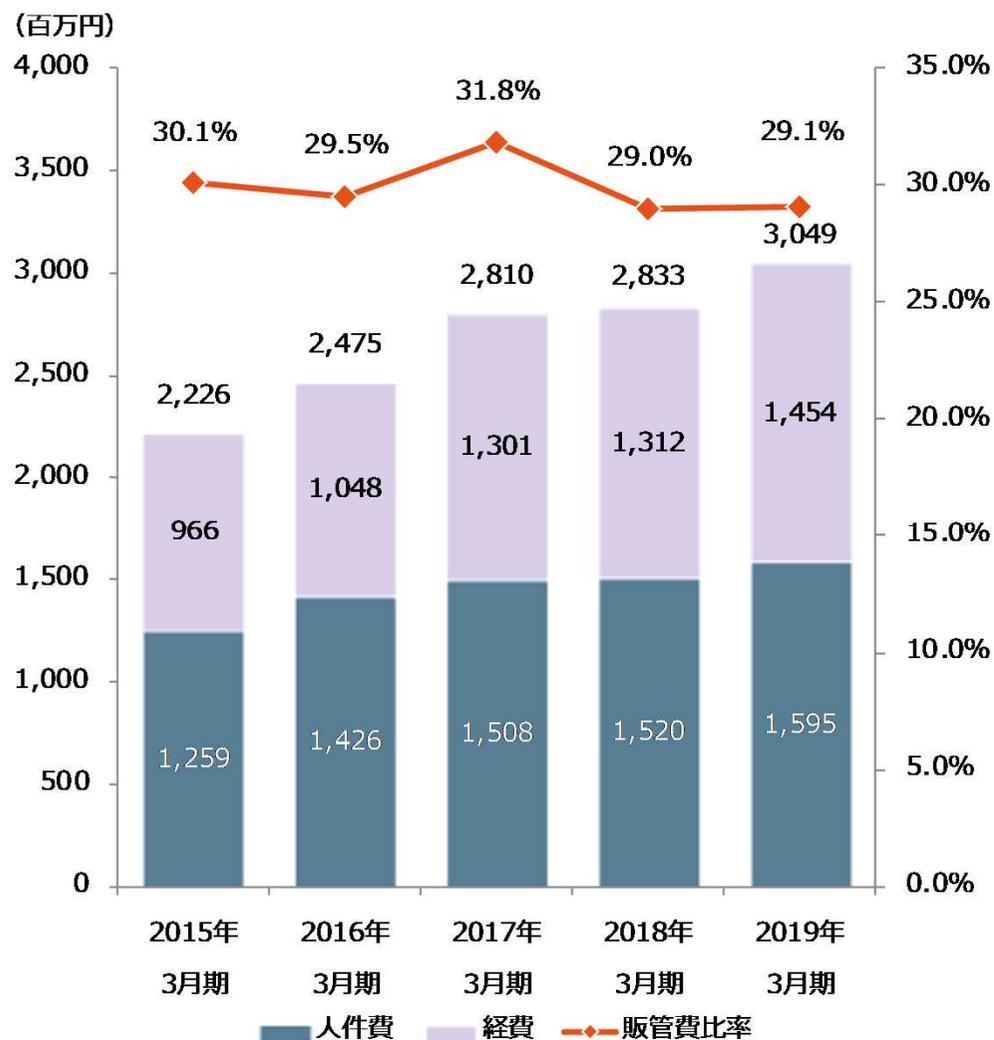
売上総利益と売上総利益率の推移



- 売上原価が売上高と同じ前期比7.3%増となり、売上総利益は同7.2%増の5,929百万円、売上総利益率は56.6%と前期と同水準を維持した。
- 売上総利益の増加400百万円の内、増収による効果がほぼ全額を占め、収益率の改善による効果はほぼ0であった。
- 自社開発機の増強等による自動化は継続しているものの、そのウェイトがかなりの部分を占めるまでに上がってきていることから、効果が出難くなっている。また下期にかけては小ロット製品に注力したことも影響したと思われる。

業績推移（販管費の推移）

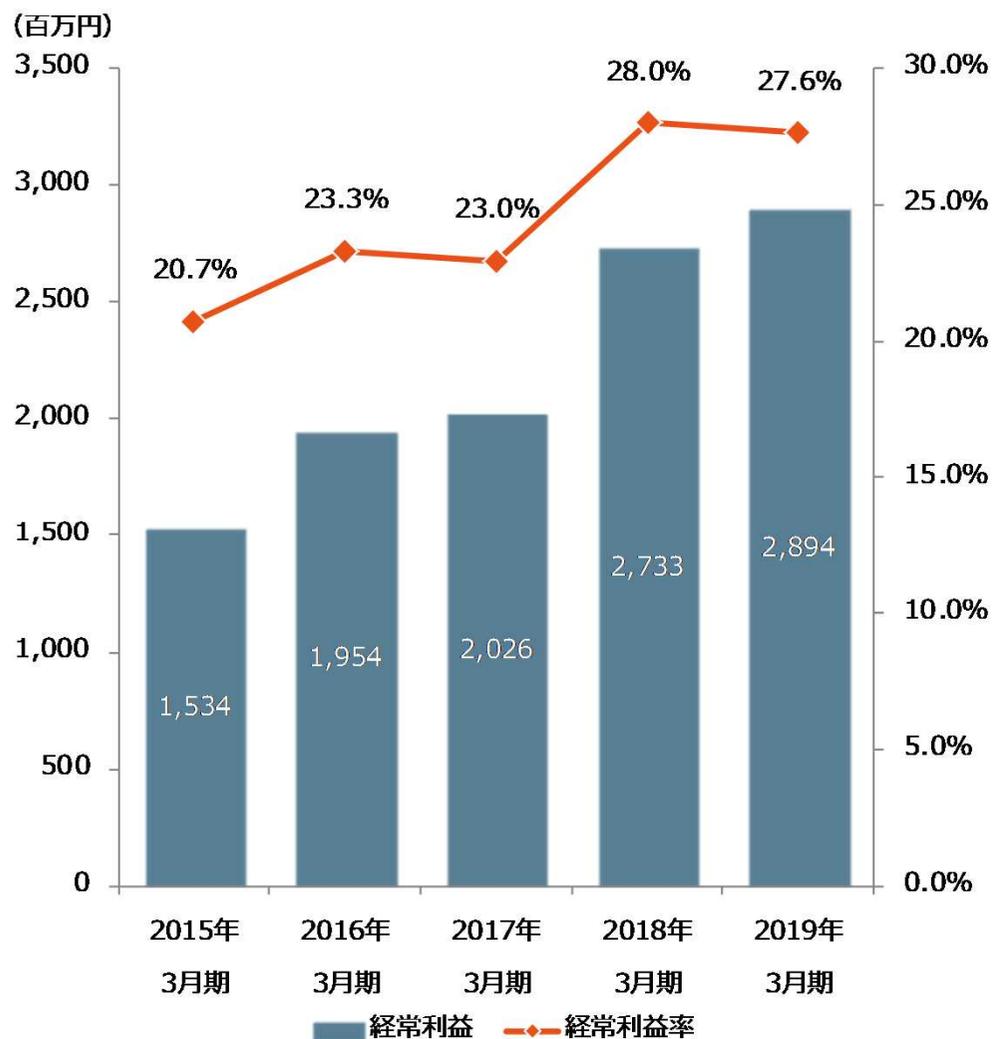
販管費と販管費比率の推移



- 販管費では、日本最大の工作機械関連見本市であるJIMTOF（2年に1度開催）及びJIMTOF開催にあわせて行う総合カタログの改訂を行ったほか、本社移転に伴う賃借費（地代家賃）の上昇に加え、修繕費や消耗品費が高んだことから、一般経費が前期に比べ141百万円、10.8%増加し、販管費の増加につながった。
- それでも、売上高販管費比率は29.1%と前期に比べ0.1ポイントの上昇に止まった。

業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 売上総利益が前期に比べ400百万円、7.2%増加した一方、販管費が7.7%増加したことにより、営業利益は前期比6.8%、183百万円増加の2,879百万円。
- 営業外損益では、前期に発生した助成金収入等が当期はなく、また、海外子会社における為替差損の増加により、経常利益は2,894百万円と前期に比べ5.9%の増加に止まった。
- 売上高経常利益率は27.6%となり、目標に掲げる20%を大きく上回ったものの、前期に比べ0.4ポイント低下している。

2020年3月期の業績予想

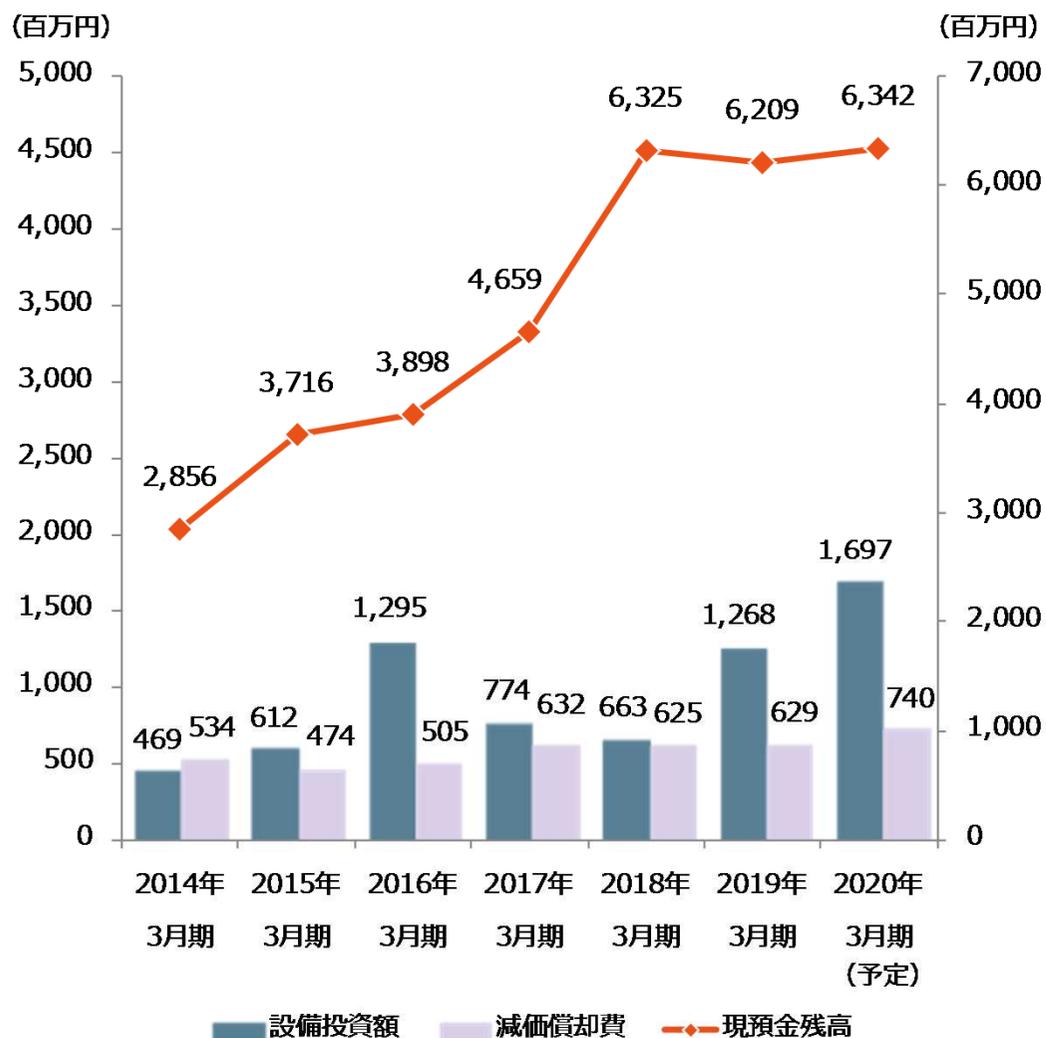


業績予想

| (単位：百万円) | 2019年3月期 実績 | 2020年3月期 予想 | 前期比 | コメント |
|----------|----------------|----------------|--------|---|
| 売上高 | 10,476 | 10,380 | -0.9% | 米中貿易摩擦の先行きや英国の合意なきEU離脱の可能性等懸念材料が多く、スマートフォンも5G対応への移行期となることから、前半を中心に小径工具需要は若干停滞すると想定。 |
| 営業利益 | 2,879 | 2,440 | -15.3% | 原材料費の上昇が通期にわたり影響するほか、2020年1月に開催予定のプライベートショーや新開発センター竣工等による減価償却費の上昇を見込む。 |
| 経常利益 | 2,894 | 2,460 | -15.0% | 同上 |
| 当期純利益 | 1,970 | 1,690 | -14.2% | 同上 |
| 設備投資額 | 1,268 | 1,697 | +33.8% | 新開発センターの竣工や開発関連設備の導入、子会社工場の新棟建設及び継続的な生産設備の更新等により増加を見込む。 |
| 減価償却費 | 629 | 740 | +17.7% | 同上 |
| E P S | 157.59円 | 135.16円 | -14.2% | |
| 1株当り配当金 | 45円 | 45円 | | 利益水準は低下を想定するものの、配当の安定性等を考慮し前期と同じ年間配当45円を予定。 |

設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



(左軸：設備投資額・減価償却費、右軸：現預金残高)

増減要因

2016年3月期

工場増設と機械設備の前倒し導入により年度設備投資額は過去最高であった。

2018年3月期

設備投資は機械設備を中心に663百万円と計画を若干下回り、減価償却費も微減となった。

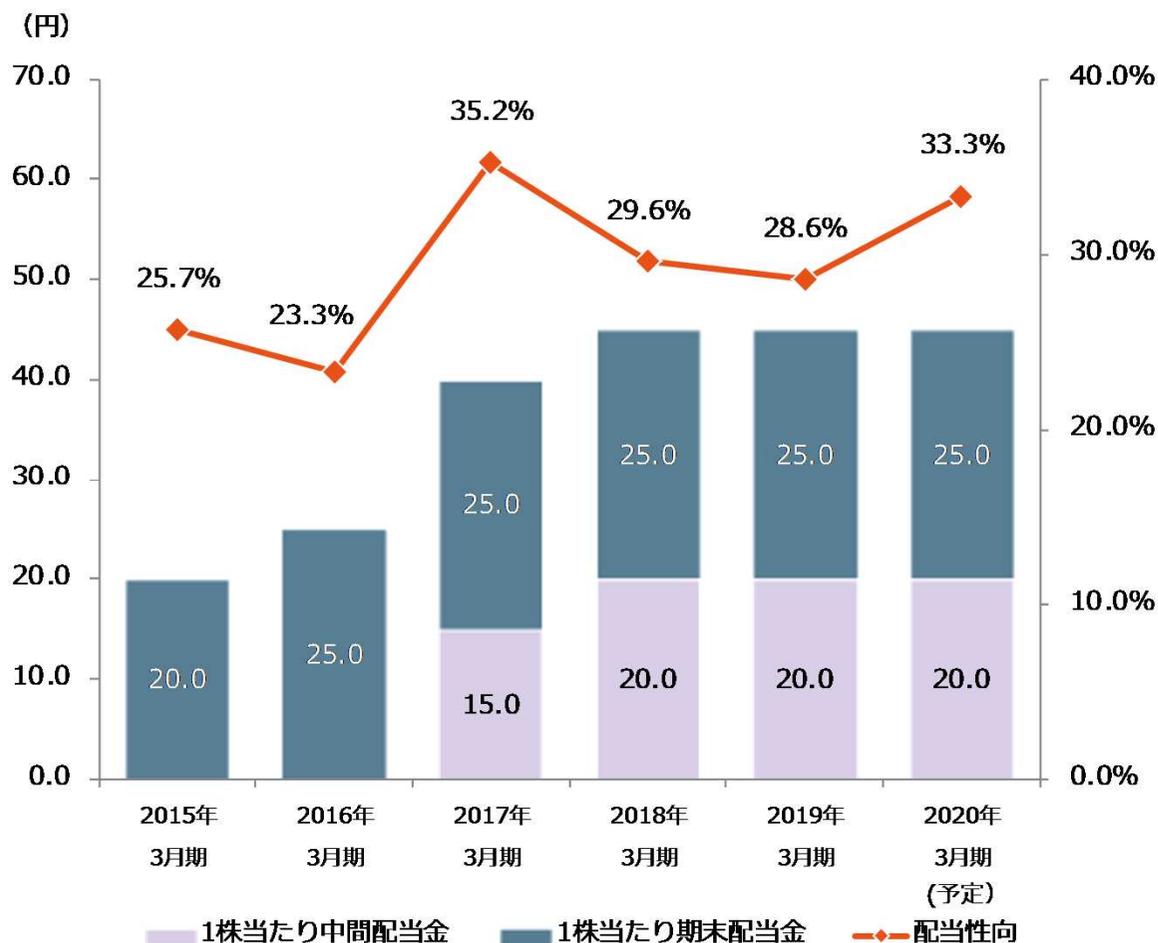
2019年3月期

継続的な生産設備の拡充のほか、新開発センター着工による建設仮勘定により増加。

2020年3月期計画

新開発センターの竣工や開発関連設備の導入、子会社工場の新棟建設及び継続的な生産設備の更新等により増加を見込む。

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

- ・ 2019年3月期の1株当たり年間配当金は45円。
中間配当20円、期末配当25円
配当性向は28.6%
- ・ 2020年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定。
中間配当20円、期末配当25円
業績予想に対する配当性向は33.3%

利益水準の低下を想定するものの、配当の安定性等を考慮して前期の水準を継続。

- ・ 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された、1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈。

なお、2019年3月31日より、保有年数3年以上の株主様には1,000円分を追加で贈呈。

**自社株買いではなく
配当にウェートを置く方針**

參考資料



日進工具の概要 (2019年3月31日現在)

| | |
|------|-------------------------------|
| 商号 | 日進工具株式会社 (NS TOOL CO.,LTD.) |
| 創業 | 1954年(昭和29年)12月 |
| 本社 | 東京都品川区大井1-28-1 住友不動産大井町駅前ビル6F |
| 資本金 | 4億4,290万円 |
| 代表者 | 代表取締役社長 後藤 弘治 |
| 従業員数 | 単体:219名、連結:343名 |
| 事業内容 | 超硬エンドミル(切削工具)の製造・販売 |

沿革・業績推移

← 第1次成長期 → ← 第2次成長期 → ← 現体制 →

売上高27.1億円、経常利益3.3億円 達成

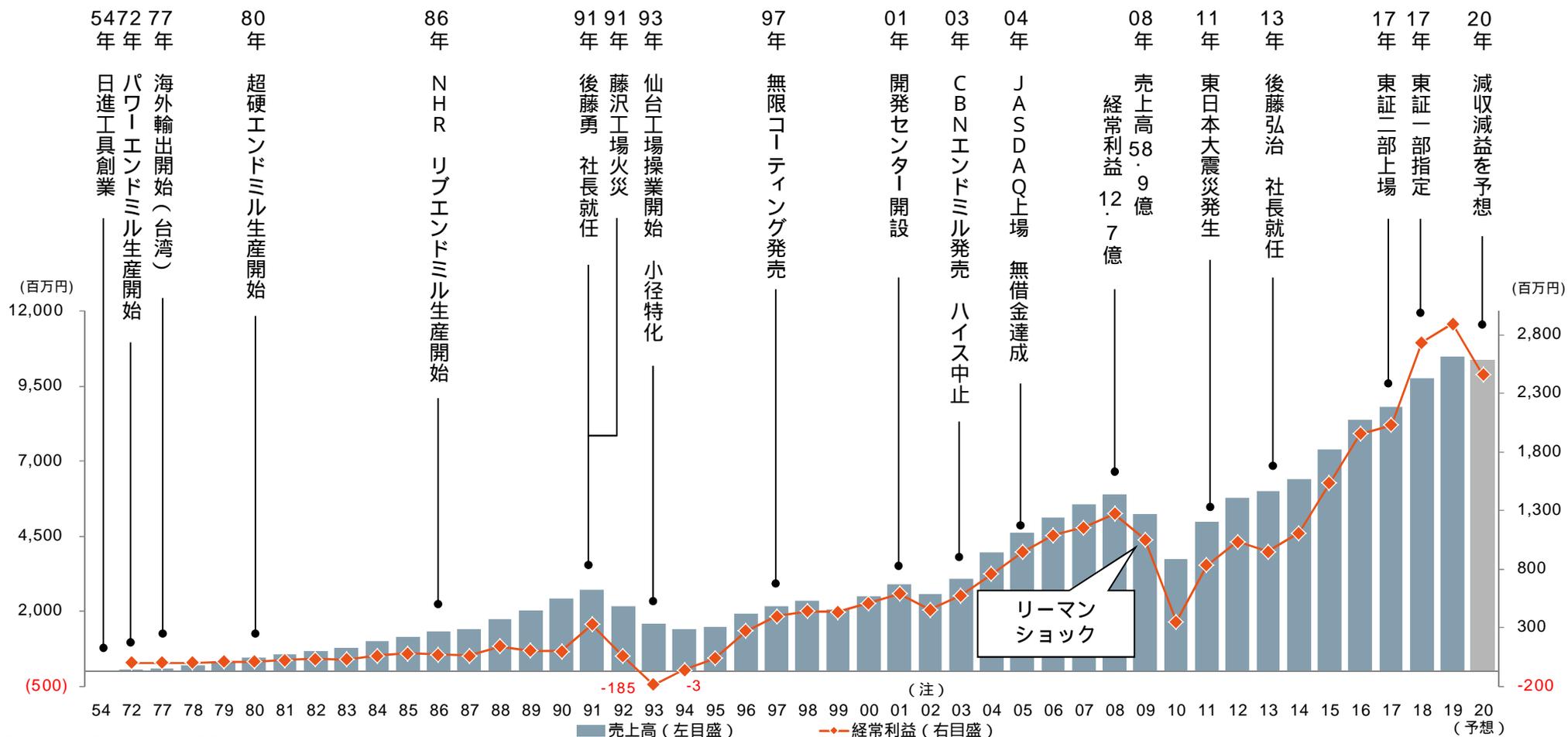
売上高58.9億円、経常利益12.7億円 達成

13年4月就任

後藤 弘治

後藤 進二

後藤 勇



当社製品（超硬エンドミル）について

エンドミルとは、外周と底部に切れ刃を設け、工作機械（マシニングセンタ）に取付け回転させることにより、金属等の加工を行う切削工具の一種。

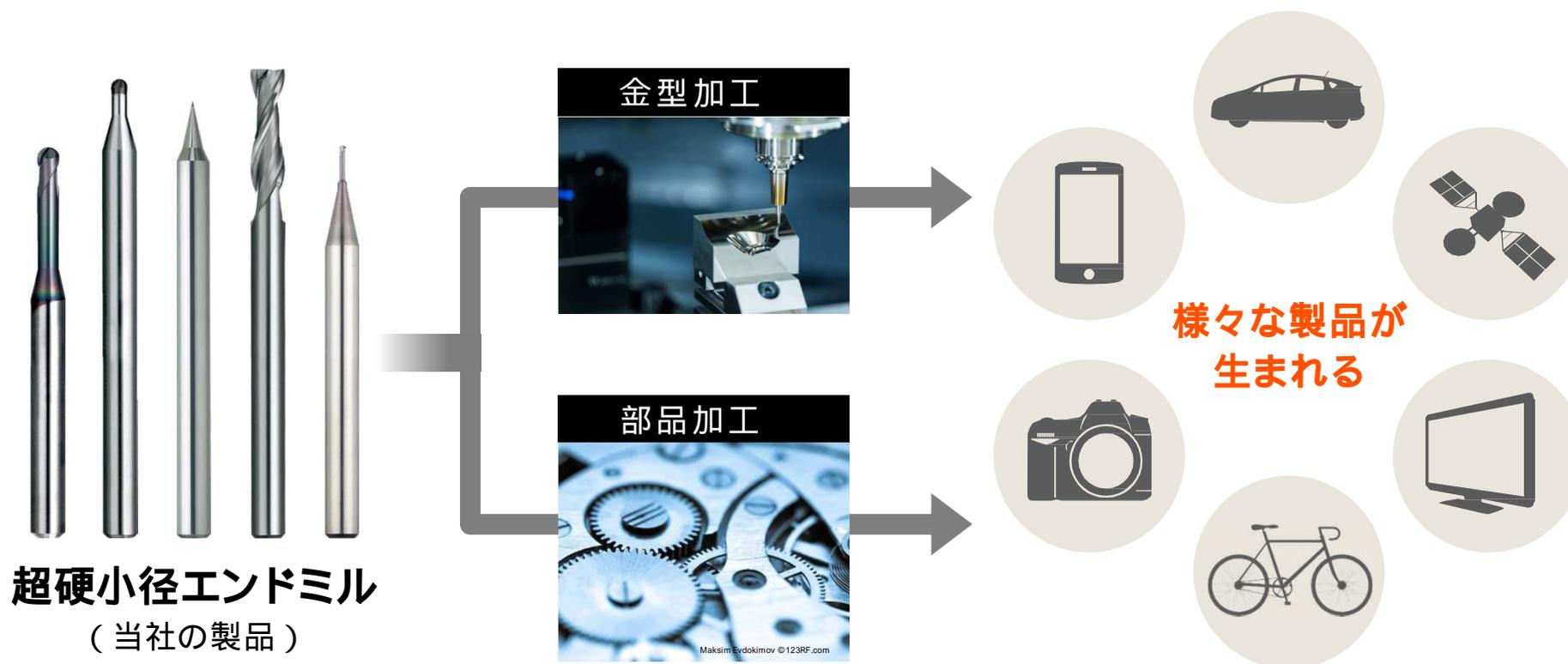
従来はハイス（高速度工具鋼）製が主体であった。

ハイスより硬い超硬合金（炭化タングステンとコバルトの焼結体）を使ったものが超硬エンドミル。



超硬エンドミルの用途

超硬エンドミルは、金型や金属部品等の切削加工に用いられる。
当社では、刃先の直径が6mm以下となる小径エンドミルに特化しており
(数量ベースで約90%)、主に高い精度が要求される精密金型や微細部品等の
加工に使用されている。



当社のビジネスモデル

ニッチトップ戦略

小径エンドミルに経営資源を集中することにより、企業規模は小さいが、市場でのトップシェアを獲得。

Made in Japan

日本製の素材を使用し、国内で生産。自動化や生産拠点の集約により高品質な製品を効率的・安定的に生産。

技術営業・開発営業

ユーザーの製品開発段階から入り込み、加工ニーズに合った提案営業を実践。

これらの推進により競争優位性を保ち、強固な財務基盤と高い収益力を確保。

日進工具 3つの強み



01

生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る

高付加価値に特化



03

販売力

小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案
海外でも認知度がアップ



02

開発力

超モノづくり部品大賞等を受賞

高付加価値・次世代製品への取り組み
カギは製品の高精度化と長寿命化

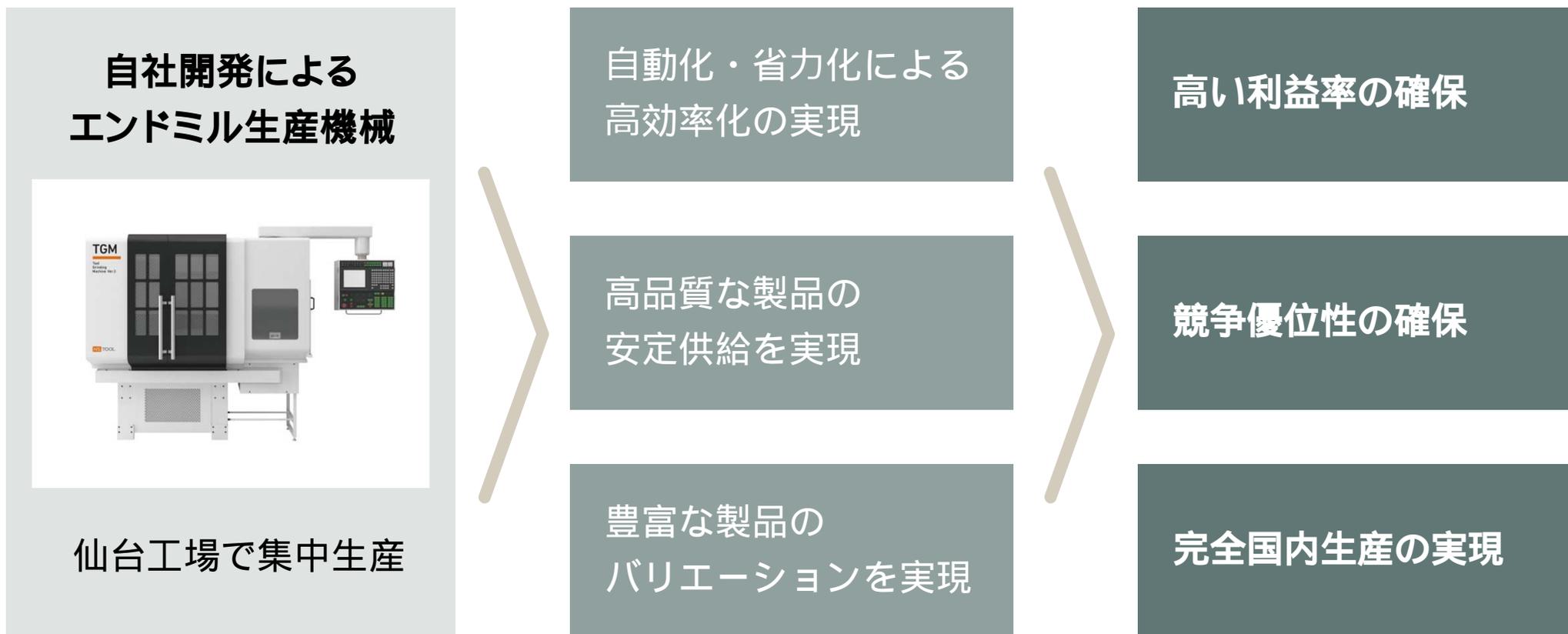
財務体質

強固な財務基盤と高い収益力

有利子負債 ゼロ

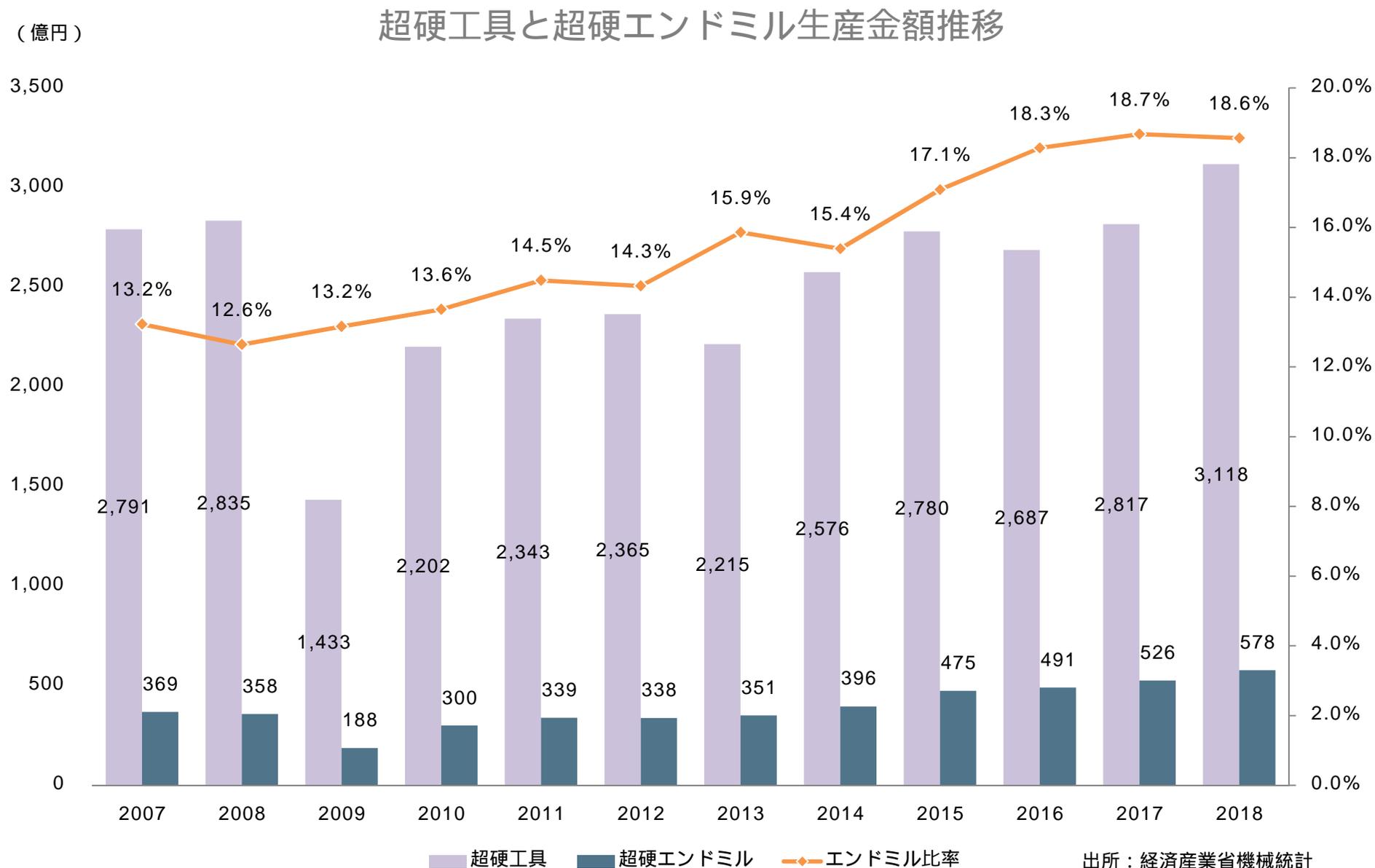
経常利益率 27.6% (2019/3期)

自社開発機による自動化（圧倒的な差別化）



Made in Japan の徹底

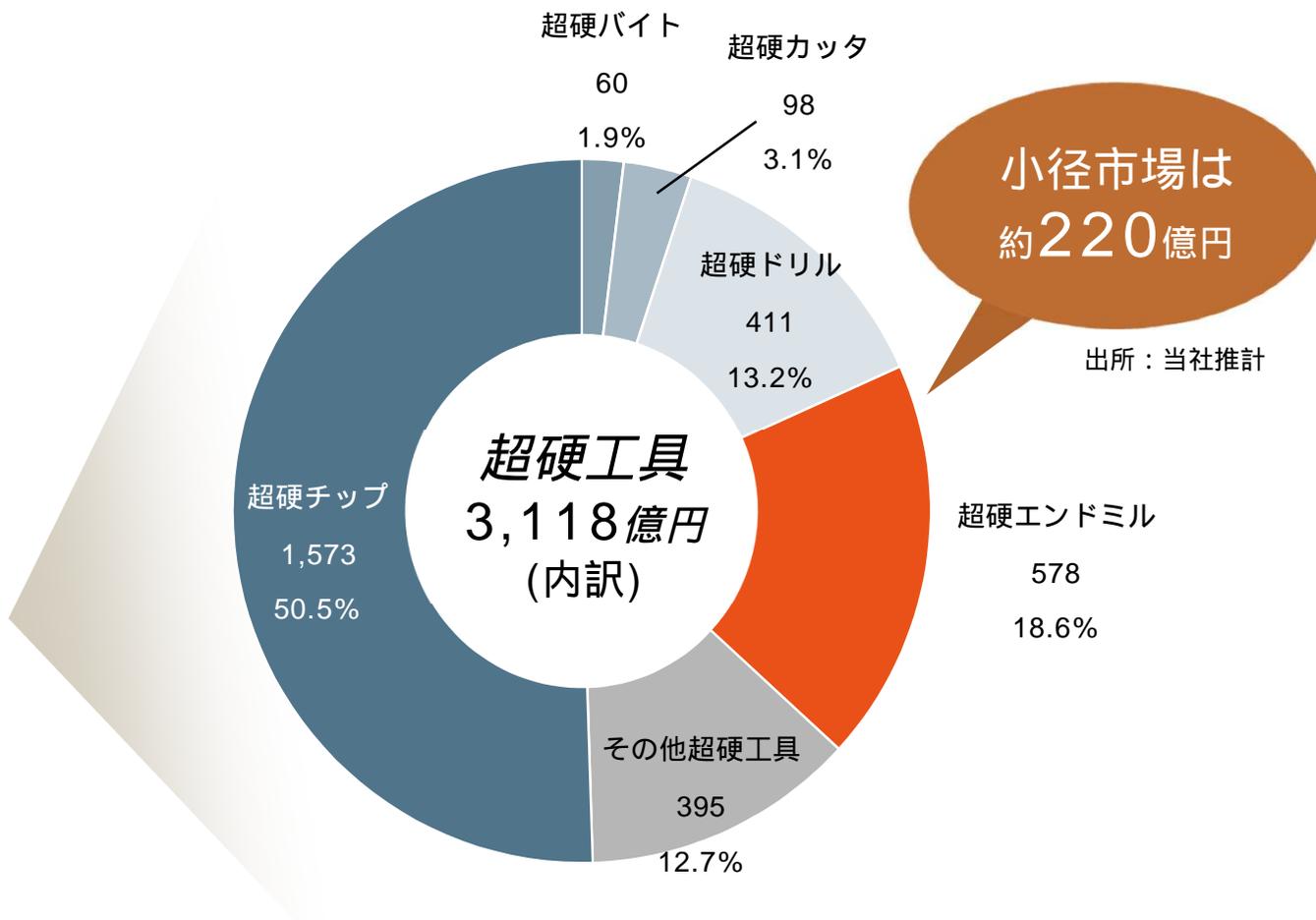
超硬工具と超硬エンドミル市場推移（暦年）



超硬小径エンドミル市場の概況

| | |
|------------------|------------------|
| 機械工具生産金額 (2018年) | |
| 総額 | 5,021 億円 |
| 超硬工具 | 3,118 億円 (62.1%) |
| C(W)BN工具 | 298 億円 (6.0%) |
| ダイヤモンド工具 | 695 億円 (13.8%) |
| 特殊鋼切削工具 | 908 億円 (18.1%) |

出所：経済産業省機械統計

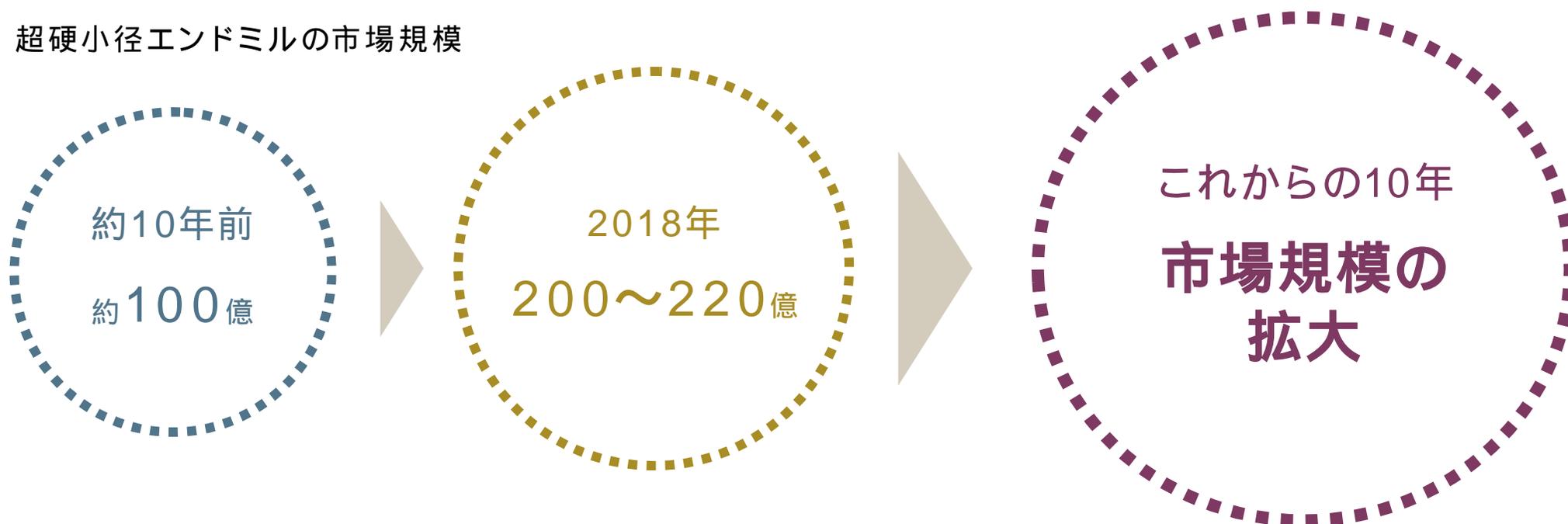


今後の超硬小径エンドミル市場

超硬小径エンドミルの市場規模は、家電のデジタル化や携帯電話の登場により拡大し、ここ数年はスマートフォンの普及、自動車の運転支援機能の高度化等からそのペースを速めている。

今後も、自動運転化の流れやIoTの進展とともに、様々な製品にセンサーや通信モジュール等の小型精密部品の採用が進むとみられることから、それらの生産に欠かせない超硬小径エンドミルも需要拡大が予想される。

超硬小径エンドミルの市場規模



コーポレートガバナンスの体制 (2019年3月31日現在)

| | |
|----------------|-----------------------------|
| 形態 | 監査等委員会設置会社 |
| 取締役の人数 | 7名 |
| うち、監査等委員 | 3名 |
| うち、社外取締役の人数 | 2名 |
| 社外取締役のうち独立役員 | 2名 |
| 任意の委員会 | 報酬委員会（社外取締役2名、社内取締役1名で構成） |
| 取締役の任期 | 1年（監査等委員は2年） |
| 取締役へのインセンティブ付与 | 株式報酬制度・業績連動賞与 （監査等委員は除く） |
| 執行役員制度 | 有（現在5名） |
| 会計監査人 | 監査法人A&Aパートナーズ |

グループ会社の概要 (2019年3月31日現在)

連結子会社

株式会社ジーテック

所在地

東京都品川区



事業内容

当社製品の販売

株式会社牧野工業

所在地

本社：福島県白河市
東京事務所：東京都荒川区



事業内容

工具ケースを主力としたプラスチック成形品の製造・販売

株式会社日進エンジニアリング

所在地

本社：宮城県黒川郡大和町
新潟工場：新潟県魚沼市



事業内容

コーティング加工、再研磨、
超硬エンドミルの受託加工（刃径6mm超の製品）

NS TOOL HONG KONG LIMITED

（日進工具香港有限公司）

所在地

中華人民共和国香港特别行政区



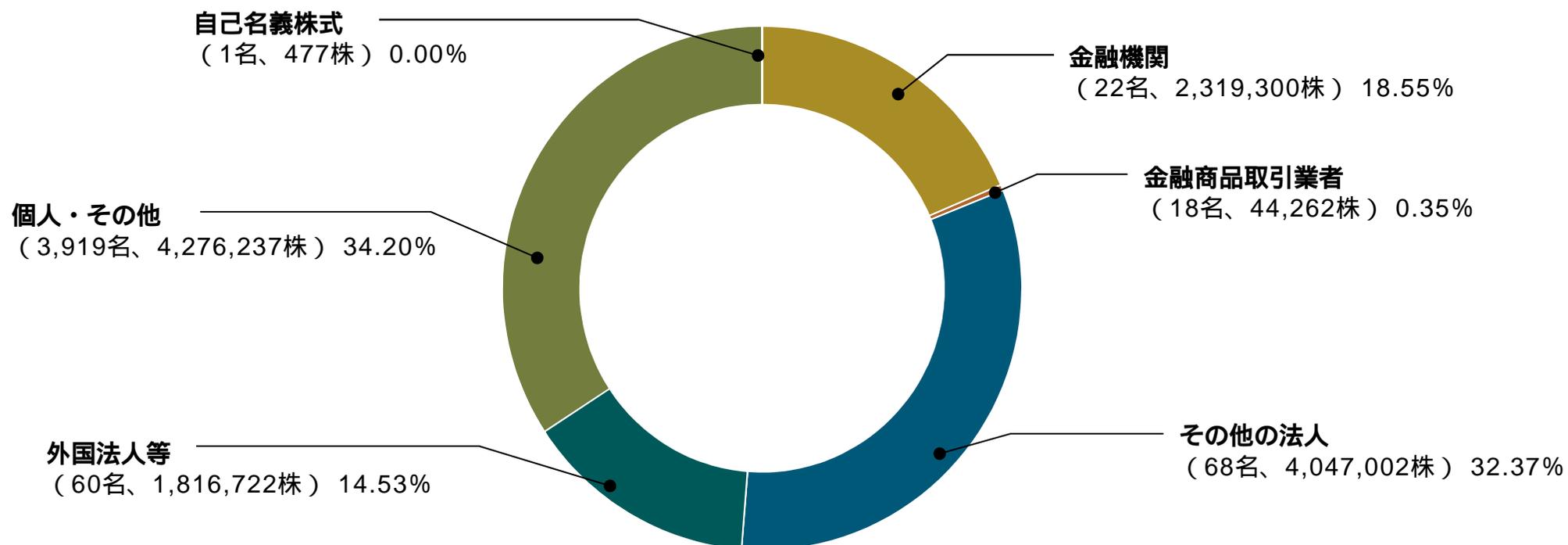
事業内容

当社製品の販売（香港・中国）

株式の状況 (2019年3月31日現在)

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 19,200,000株 |
| 発行済株式総数 | 12,504,000株 |
| 株主数 | 4,088名 |

所有者別株式数分布状況



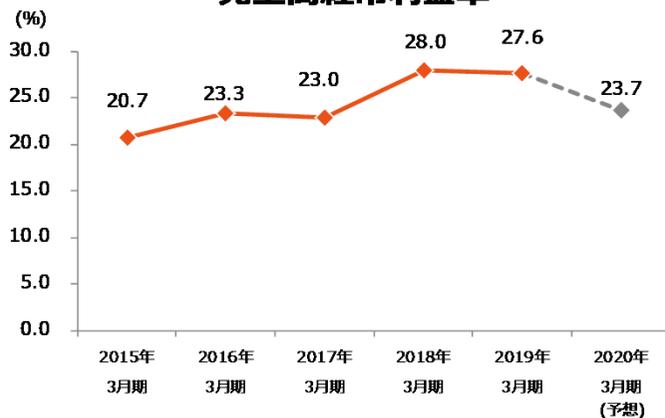
過去5年間の業績と主要データ推移

| (単位：百万円) | 2015年 3月期 | 2016年 3月期 | 2017年 3月期 | 2018年 3月期 | 2019年 3月期 |
|----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 売上高 | 7,402 | 8,382 | 8,825 | 9,767 | 10,476 |
| 営業利益(率) | 1,481 (20.0%) | 1,914 (22.8%) | 2,013 (22.8%) | 2,695 (27.6%) | 2,879 (27.5%) |
| 経常利益(率) | 1,534 (20.7%) | 1,954 (23.3%) | 2,026 (23.0%) | 2,733 (28.0%) | 2,894 (27.6%) |
| 当期純利益(率) | 973 (13.1%) | 1,342 (16.0%) | 1,420 (16.1%) | 1,903 (19.5%) | 1,970 (18.8%) |
| 有利子負債額 | | | | | |
| 純資産額 | 8,480 | 9,569 | 10,666 | 12,002 | 13,461 |
| 総資産額 | 10,339 | 11,371 | 12,517 | 14,467 | 15,381 |
| 自己資本比率 | 82.0% | 84.2% | 85.2% | 83.0% | 87.1% |
| 設備投資額 | 612 | 1,295 | 774 | 663 | 1,268 |
| 減価償却費 | 474 | 505 | 632 | 625 | 629 |
| 1株当たり配当金 | 20円 | 25円 | 40円 | 45円 | 45円 |
| 従業員数 | 281人 | 280人 | 322人 | 338人 | 343人 |

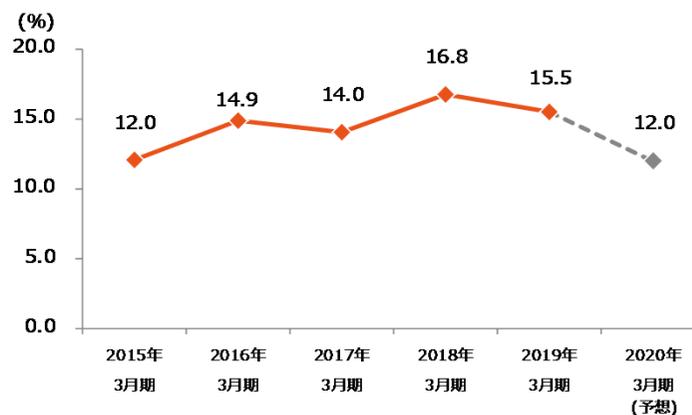
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標

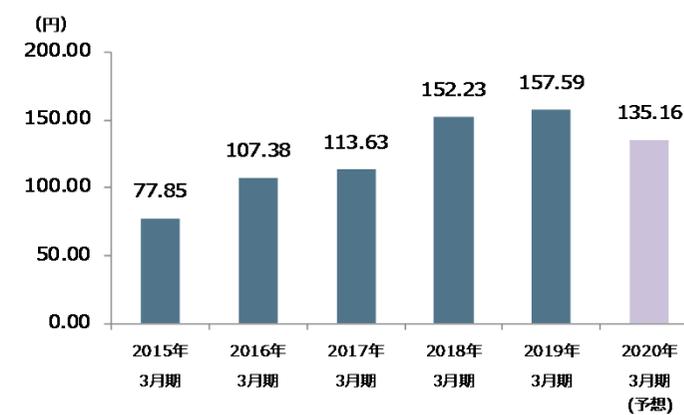
売上高経常利益率



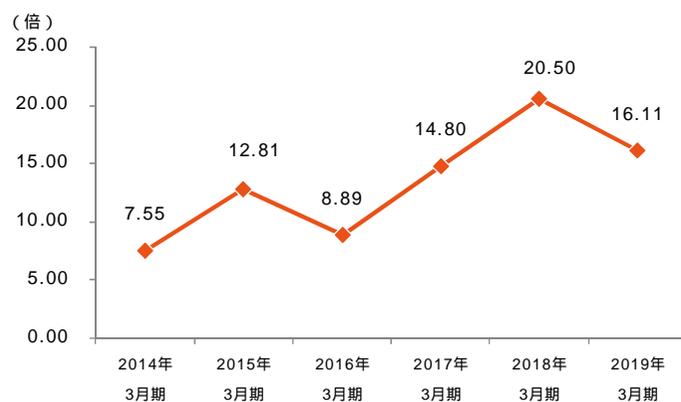
株主資本当期純利益率 (ROE)



1株当たり当期純利益 (EPS)



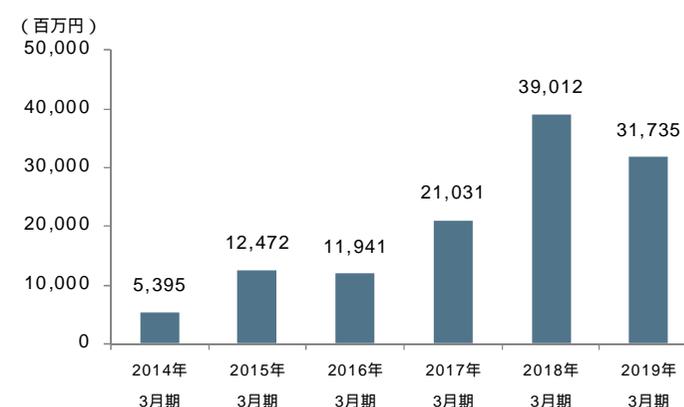
株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)



時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移（2013年1月～2019年5月）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション（2019年5月7日現在）

| | |
|---------------|-------|
| 売買単位 | 100株 |
| 時価総額 | 314億円 |
| ROE (19/3期実績) | 15.5% |

| | |
|---------------|-----------|
| 単元株価格 | 25万1,200円 |
| PER (20/3期予想) | 18.59倍 |
| PBR (19/3期実績) | 2.34倍 |

IR情報サイトのご案内

The screenshot shows the NS TOOL IR information website. The top navigation bar includes '製品情報', '事例・技術情報', '会社情報', '採用情報', and 'IR情報' (highlighted in orange). Below the navigation bar, there is a main header with 'Investor Relations' and 'IR情報' (with a '+' icon). The main content area is divided into two columns. The left column features 'IRトピックス' (IR Topics) with a list of recent reports, including '2019年3月期 第2四半期決算説明会' and '2019年3月期 中間報告書'. The right column features 'IRニュース' (IR News) with a list of news items, including '個人投資家の皆様へ' and 'IRカレンダー'. A sidebar on the right contains a 'IR情報' menu with a '+' icon and a list of categories: 'IR情報トップ', 'トップメッセージ', '個人投資家の皆様へ', 'IRトピックス・IRニュース', 'IRカレンダー', '+ 経営方針・体制', '+ 事業戦略', '+ 業績・財務情報', '+ IRライブラリー', '+ IRイベント', and '+ 株式情報'.

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています。

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます。

現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります。

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます。

URL <https://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

| | | | |
|------|--------|----|-----|
| 執行役員 | 経営企画室長 | 田島 | 寛 |
| 管理部 | 経理課課長 | 今関 | 弘毅 |
| 管理部 | I R 担当 | 松尾 | 友紀子 |

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。